# 新聞を活用した社会に関心を持たせる活動のあり方

~新聞記事を読み考える機会の設定を通して~

日南市立南郷中学校 教諭 矢野 真生

#### 1 はじめに

21世紀は情報化が加速し、様々な媒体も現れ、 それを人々は活用し、取捨選択をしながら生活 に取り入れている。新聞に限らず、テレビでは ニュースが流れ、コメンテーターが様々な主張 をしある方向性を示す。インターネットや携帯 電話のサイトとしてもニュースをリアルタイム で見ることもできる。このような正の側面がある一方で、負の側面があるのも否めない。しか し、それは情報を活用する人間が正確に情報を 把握し、その情報の中にある考え方や意見を自 分の考えと照らし合わせて、また自分の考えを 構築できればよいことでもある。

前述のとおり、新聞やテレビ、インターネットなど情報を提供してくれる存在はたくさんあるが、ずっとこの情報の担い手の中心であった「新聞」というものに対して、人々の新聞離れが進んでいないか、活字離れが進んでいるのではないか、と個人的に感じてきた。

今回、本校でNIE推進委嘱校として実践することになり、改めて身近にある「新聞」というものを使った社会科をはじめとする様々な教育活動で研究を進めていく機会を得た。情報が氾濫する世の中で、現在の中学生が真の意味で情報を活用する力を育てていくためには、まず新聞を読み取り、活用する能力を身に付けさせることがその礎になる。また、社会科や各教科においても社会的事象を多面的にとらえ、物事に対して自分の考えを深化させながら、他の様々な意見を咀嚼した上で、考えを自分なりに練り上げていく力、自己表現する力をを育てていきたいと考えた。

## 2 研究主題・副題

新聞を活用した社会に関心を持たせる活動のあ り方

~新聞記事を読み考える機会の設定を通して~

## 3 主題設定の理由

南郷中学校は本年度より合併に伴い日南市立となり、全校生徒が250名の中規模校である。 年々生徒数が減少しているが自然環境に恵まれた学校である。本校では小中一貫事業を校区内の小学校と進め、時と場に応じた言動や自己表現のできる児童生徒の育成を研究主題として取り組んできた。社会科の課題として、社会に対する広い興味・関心にやや乏しいという分析結果が諸調査において出ている。本年度は推進校1年目ということもあり、まずは以下の3つを柱として、活動を推進していこうと考えた。

- 新聞記事を目にする場を設ける。
- ② 新聞記事を読んで自分の考えをまとめられる生徒を育成する。
- ③ 社会科などの学習の中で新聞を活用した活動を実践する。

以上の3つを継続的かつ常時的にできるよう にするとともに、新聞の活用を通して、社会を 考える力の育成を図っていきたいと考えた。

## 4 研究の実際

## (1) 新聞記事を目にする場の設定

日頃よりなるべく機会をみて新聞を授業の資料や題材に活用してきたが、学校全体として新

聞に触れる機会を整備していきたいと考えた。 本校は生徒玄関から管理棟を通過して、教室棟に向かう校舎となっている。また移動教室等においても管理棟を通過する機会が非常に多い。 職員室前の廊下に昨年度、掲示コーナーが整備されたので、本年度はNIEコーナーを設け、常に2日に1記事くらいのペースで新聞記事を更新しながら掲示をしていくこととした。

記事の内容については政治に関すること、経済に関すること、特集されているもの(有名な大名の子孫、ベルリンの壁崩壊20年など)、歴史に関するもの、スポーツ関係と分野が偏らないように心がけた。



また、定期テストにおいても以前より担当学年では時事問題を出題するようにしていたが、本年度は全学年共通の時事問題を出すことにした。そして、毎回、その正答率の結果を掲示し興味・関心を高めるようにした。

# (2)新聞記事を読んで自分の考えをまとめられる生徒の育成

本校では研究の一環として1分間スピーチを 帰りの会などで取り入れるようにしている。私 は1学年の学級担任であったので、1学期はテ ーマは自由にスピーチをさせていたが、2学期 より時期をみて新聞記事より生徒が気になった ニュースについて自分の考えを話す取組をした。 また、冬休みの全校生徒の共通の課題として新



聞などの媒体を通して気になったニュースに関する自分の感想等を書いてくるという取組をおこなった。

# (3) 社会科などの学習の中で新聞を活用した活動の実践

9月には地理的分野において新聞を活用した 授業を計画的に行うこととした。地理的分野に ついては本校が使用している教科書では、第3 章「日本のすがたとさまざまな地域」では、日 本の位置を調べ、広さを確認する内容から日本 の諸地域の学習に入っていく構成になってい る。大まかな内容としては日本の国土の範囲と して最東端や最南端などを確認して、領土・領 海・領空を理解していく。

そして、経済水域で得られる水産資源や鉱産 資源を確保するために、日本は沖ノ鳥島の護岸 工事を行ってきた事実は教科書や地図帳にも記 載されている。

今回は新聞を活用するために、国家間に横た わる領土問題について取り扱うこととした。

## ①学習計画

時	学習活動
1	日本の位置を調べよう ①ユーラシア大陸の東にあり、兵庫県明 石市の東経135度を標準時と決めている。 ②日本と同緯度・同経度の国を世界地図 で確認する。
1 (本時)	日本の広さを調べよう ①日本の国土面積38万㎢で、択捉島・与 那国島・南鳥島・沖ノ鳥島がそれぞれ最 北端・最西端・最東端・最南端である。 ②国家には領土・領海・領空があり、ま た経済水域が設けられている。北方領土 などの領土問題が存在する。
1	日本をいくつかの地域に分けよう ①8地方区分(北海道・東北・関東・中部・近畿・中国・四国・九州) ②東日本と西日本、様々な地域区分
1	都道府県を確かめてみよう ①都道府県の確認とそれぞれの地方区分 ②昔の行政区分 ③日本の略地図をえがく

## ②本時の活動(2/4時間)

新聞記事から竹島問題について考える機会を この領域の学習の中で設定することとした。授 業のポイントを次の3点とし、生徒に指導する こととした。

- ・新聞を読んだ感想を書く
- ・新聞を読んで疑問点を持つ
- ・意見を聞き、考えを広める

生徒の意識に、新聞には様々な記事が掲載される、という認識を持ってもらえるように授業を ている、そして教科書の内容にもつながってく 進めたいと考えた。

段階	学習内容及び学習活動	資料準備
つかむ	1 前回までのワーク確認を行う。 2 北方領土(63%)竹島(0%)聞いたことがある言葉として提示する。 3 本時は日本の領土について学習することを確認する。  日本の領域はどこまで広がっているのか	地理ワーク
調べる	4 日本の最東端・最西端 ・最南端・最北端は何を見 れば分かるか質問する。 5 確認する。 6 200海里経済水域を 確認する。 7 竹島・尖閣諸島(魚釣島)を確認する。	北方領土・南西諸 島のプリント 特別パネル
深める	8 竹島の新聞記事を見て の感想を発表する。 9 昨年7月の竹島問題で の新聞記事を読む。	ワークシート新聞記事
まとめる	10 本時及び本単元のまと めをする。 「経済水域は重要であ り、領土や領域をめぐ る問題も存在する」	

そこで、私が担任を務める1年1組での授業 で事前に次のようなアンケートを実施していた。

次の地名を聞いたことがありますか。

北方領土 (ほっぽうりょうど)

はい いいえ

竹島(たけしま)

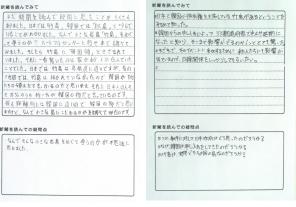
はい いいえ

結果は「北方領土」という言葉を聞いたことがあると答えた生徒が63%、一方、「竹島」は0%だった。少ないとは考えていたが、「竹島」の0%は予想していなかった。今回は事前にグループごとではあったが、3種類の新聞記事を読ませ、それに対しての感想と疑問をそれぞれ書かせた。



中止などの理由は、国内で通信のまとめで分かった。 規模の縮小などに追い込まれ 交流イベントが中止や延期、などが主催する百四件の日韓 して教えるよう文部科学省が ®まっている 反日感情に配慮 いることが二十七日、 靖国神社参拝などで冷えき た韓国側からの申し入れが 小泉純一郎元首相 共同 さ 件、規模縮小など四件。 整中が十六件、日本で開催すが整中が十六件、日本で開催す 事業の延期十六件、凍結・調ち中止は六十三件。このほか 大会などが多く、百四件のう首長らの訪問事業やスポーツ ベントは小中高校生や教員、 に実施した。影響を受けたイ 都道府県や政令市などを対象 いる。 及したのは残念」と困惑して 楽しみにしていた子どもに波 的な問題が、 都道県別で最も件数が多か 一十五日時点で、 夏休みの訪問を 百四件のう 士 各 たが、韓国側かたが、韓国側から生徒 でいる韓国・忠清 でいる韓国・忠清 でいる韓国・忠清 福岡市立福岡女

授業では、ロシアに占拠されている最北端の択 捉島をはじめとする北方領土や竹島、尖閣諸島 などを扱い、ロシア・韓国・中華人民共和国な どとの領土問題になっていることを踏まえ、竹 島の新聞記事の感想を数名に発表させた。また、 竹島問題を主要6紙の社説見出しをまとめて掲 載していた新聞記事を配付した。生徒達が各紙 で若干ニュアンスが異なる、主張や意見が違っ てくることも分かるようにした。



### 5 研究の成果

今回は授業の中で焦点化して新聞記事を活用したので、生徒の思考も広がり、授業の中だけでなく、図書館やインターネットで調べた生徒もいた。他の新聞記事にも興味を示し、小さな島をめぐる国家というものの反応を経済水域などの既習内容とつなげて考える機会ができた。また、テストでの時事問題も3学期は正答率もやや高くなり、この新聞を活用する取組で関心が更に高まっていけばと考えている。

#### 6 今後の課題

今年度は国語科やPTAの学力向上委員会などで新聞を活用した取組をしていただいたので、今後もまたこのような活動を活発にしていきたいと考えている。また、有効な新聞活用の授業づくりや全校通じての活動を模索したいと思う。